

核兵器廃絶・憲法を活かす政治をめざして

=新たな民主党政権下での平和運動の方向を討議=

9月12日、県平和委員会第2回理事会が水戸で開催されました。時間いっぱいまで38名の参加者が活発に討議をおこないました。討議の内容は、①新たな民主党政権のもとでの平和運動の方向性と課題及び私たちの活動の基本、②県大会以後の取り組みのまとめ、③秋の運動の具体化などを柱に話し合いました。

討論では情勢討議と合せて核兵器廃絶問題や署名の発言・夏の戦争展・宣伝行動・秋の市民集会・百里軍民共用化・意見広告など多彩でした。

I. 平和のアピールをさらに県民の中へ

1. 2年前の参議院選挙では憲法改正を争点にして自・公政権はやぶれた。私たちは「憲法守れ」から「憲法を活かす」運動運動を提起した。具体的には自衛隊の海外派兵阻止・軍事費削減・日米共同軍事訓練反対・基地問題等々、守りから攻めの運動に移した。今回の総選挙で自・公政権は崩壊したが、民主党政権にかわってもさらに前進させる事を確認した。(民主党も含めて憲法改正議員が激減)

2. 今年4月のプラハでのオバマ演説後、世界的に広まった核兵器廃絶の運動を被爆国日本が最も積極的に取り組まなければならない。

来年5月開催の核不拡散条約再検討会議に向けて署名運動を中心に県民に訴えていく。

3. 新しい政治情勢と課題のもとでの活動の基本は、県民へのアピールをどれだけ拡大深化させるかにある。2月の百里初午まつりからはじまり、5・3憲法憲法フェスタ、平和行進・世界大会、夏の戦争展、秋の宣伝行動、市民集会、意見広告及び各平和委員会の取り組みと活動は着実に定着しつつある。課題はより創意工夫をこらし運動を広げる事にある。

4. 夏の戦争展では今年は20ヶ所(去年は10ヶ所)だが全市町村で取り組めるよう県平和委員会としても地域の団体と協力してすすめていく。また、開催箇所が多くなるにつれて展示物を増やしていく必要がある。インパル作戦、憲法・安保・沖縄パネル等を作っていく。

II. 秋の取り組み

1. 10月秋の宣伝行動：県内6つのブロックで実施
各ブロック1週間単位での宣伝カー運行計画がまだ決まっていない所は9月中に決めてもらう。チラシ・テープは県で用意する。

2. 秋の市民集会：米軍機くるな茨城実行委員会主催なのでそこへの提案となります。

(1) 名称を安保中心にしていくためにも「安保なくす茨城会」とか「安保なくす10条の会」など検討する。運動を発展させるために「実行委員会」を改組していく。(現在、代表不在。申し合わせ事項の検討等)

(2) 横田・厚木ツアーを11月に実施。秋の集会をその関連で12月5日(土)に開催する。各平和委員会は積極的に参加していく。

3. 新聞意見広告について

(1) 内容を憲法を活かす立場から核兵器廃絶を中心に自衛隊派兵・安保等にしていく。掲載紙は朝日新聞。日時は12月8日の朝刊。3分の1の紙面。

(2) 賛同目標は団体(昨年107口)、個人(昨年1270口)とも昨年を上回ることにする。

4. 核兵器廃絶署名について

(1) 日本平和委員会の1人・20筆を目標として県平和委員会が集約する。運動を前進させるために、各地域・各団体などの状況について県原水協と相談する。

5. 仲間づくりについて

各平和委員会で1~2名の仲間づくりを励まし合って成果をあげる。まず各平和委員会はこの事について話し合う事からはじめる。新しい組織づくりも地元の協力で作っていく。

6. 百里基地について。

(1) 「軍民共用化」については、自衛隊基地の拡大強化・税金の無駄づかい・安全性などの問題を県民に知らせていく。

(2) 百里の今後の取り組み強化については、弁護団・現地・支援組織でそれぞれ検討して全体的に運動が発展強化するように努力していく。以上

澤地久枝さん

石岡に来る!

講師 澤地 久枝

(ノンフィクション作家「九条の会」呼びかけ人)

演題 「いのちの重さ」

日時 10月3日(土)

午後1時30分~4時(開場:午後1時)

場所 石岡市民会館大ホール

石岡市総社一丁目2番地5号 TEL 0299-22-5187

☆主催 石岡地域憲法9条の会/「澤地久枝さんの講演会」を成功させる実行委員会 代表 飯塚和之・植田金雄・木村美也子・山口裕

※入場をご希望の方は、入場整理券が必要となります。整理券一枚につき賛助金一口500円をお願いします。

連絡先

稲田明浩(35-5315) 池上昭(26-1613) 川並英二(26-6164)
高須敬(22-4856) 中島美江子(22-6730) 福島邦誉(46-0894)
柳岡悦子(43-3183) 山口由夫(26-4428)

平和かわら版

No. 542

平和新聞茨城版(月3回発行)

2009.9.15

発行:茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp



<鹿行>

初めての平和パネル展

鹿行平和委員会 風間 道夫

8月13日から29日まで潮来市立図書館2階で平和パネル展を開催しました。鹿行で初の試みです。これまで県平和委員会の方針は示されていたのですが、場所の問題やら開催に関わる人員の貼り付けはどうする、となかなか結論が出ないでいました。

今年こそ開催しようと7月のブロック会議で決定し、場所を探したところ、潮来市の「街角ギャラリー」が8月13日から16日まで空いていることが確認できました。教育委員会のOKもできました。ところが協議の中で、「今から宣伝してどれだけの人に見てもらえるのか、やっただけで良いの?」となりました。「それなら、人の集まっている図書館でどうか、図書館の事業に取り込める。」と館長から提案されました。平和委員会が資料を提供して、展示をお願いすることで話は直ぐ決まりました。

図書館の展示スペースの展示物の撤去を手伝い、《原爆パネル》を展示しました。他に松原さんの「本気でやろうとしていた日本本土決戦 鹿島灘上陸に備えて茨城では」と民商婦人部から提供された「赤紙」を机上に展示して準備が完了しました。松原さんの本を一冊平和委員会から図書館に進呈しました。毎日図書館を訪問できなかったのも、どのぐらいの方に見てもらえたかは確認できていませんが、申し込めば図書館の事業に支障のない限り使わせてもらえるので、内容を相談しながら今後も開催するつもりです。

鹿行平和委員会が街頭署名行動

鹿行平和委員会では、8月6日潮来市のセイミア潮来店で署名行動を行いました。鹿行平和委員会事務局長の小久保事務局長がハンドマイクを握り、平和委員会のメンバーと潮来市職の総勢10人で、「核兵器を無くすため署名に協力をお願いします。署名は私たちが責任を持って来年のNPT会議に届けます。」と訴えました。

市民のみなさんの反応はこれまでの署名活動で一番でした。話の出来た人で断る人はほとんど無しでした。オバマアメリカ大統領

の核兵器を少なくの演説報道の影響……

18時から一時間の予定で、降雨のため途中で切り上げましたが、参加者10人で91筆の署名を集めることが出来ました。今後も毎月実施します。



<土浦>

2009年 原爆と人間展

土浦平和の会 近藤 輝男

2009年「原爆と人間展」が、県南生涯学習センターホワイエトギャラリーにおいて8月1日から9日まで行われました。これは土浦平和の会、被団協、9条の会、新婦人、保健生協、年金者組合等の団体が参加する実行委員会主催、茨城県教育委員会、土浦市などの後援で毎年開催されているもので、今年で5回目を迎えました。8日間（3日は休館日）で延べ入場者数1826人、平和の会の「核兵器廃絶」の署名は200筆になりました。2日は恒例の「ピースデー」としてアニメ映画「はだしのゲン」のヒロシマ平和祈念式典参加報告、被爆者の証言（被団協 茂木貞夫さん）、大西陽子さんによる「静かに歩いてつかあさい」の原爆詩朗読があり、150人が参加しました。

12歳のときヒロシマで被爆し茂木貞夫さんは「一緒に歩いていた友人が一瞬にして姿が見えなくなってしまった。やっとの思いで自宅にたどり着いて、焼けられた顔や手に油を塗ってもらったあとは1日寝込んで、意識を失ったのか翌日まで何もわからなかった。友人たちはどうなったのか、聞いても消息が分からないままでした。今でも友人たちの顔がときどき目に浮かんできます。あのような悲惨なことは二度と起こしてはいけない。茨城県にも450人の被爆者がいます。戦争は絶対やってはいけないということを訴え続けていきたい。このような集まりに参加されている人たちが平和使節団の若い人たちもぜひ一緒に多くの人たちに伝えていただきたい。」と繰り返し訴えられました。

また、終戦64周年に当たる8月15日には「平和の集い」が土浦市民会館小ホール開催されました。お盆の最中にもかかわらず180名近い人が話題作映画「靖国」を鑑賞しました。

選挙は踊る。その先に見えてくるもの!

ガリレオの落下の法則のごとく、自・公政権が垂直的に落下。弁解の余地なくレッド・カード（退場命令）を国民は下した。一極支配のアメリカ、それに追随する日本。この世界を牛耳る2つの大国。アメリカでは考えられなかった黒人系大統領が歴史上はじめて誕生。日本では戦後政治をほしいままにしてきた自民党政権の終焉。そこに歴史のエポックの「時代の意志」を感じ取った。両国民とも「何かに期待を込め」チェンジを求めた。

はっきりしない・モヤモヤの「期待」とチェンジの向こう側に経済大国→政治大国→軍事大国から経済大国→福祉大国→平和大国にすむ道を見つめていたのではないだろうか。2年前の参議院選挙では憲法改正が争点であった。今回は自・公政権そのものの是非が争点であった。共に国民の判断は正しかったと思う。幾つか思うままに記してみたい。

1. 「軍事費」は聖域か・

選挙前からあれだけ騒がれ論議されていた「財政的裏打ち」について自民・公明・民主も「軍事費」との関連では一言も言及しない。もっと恐ろしい事はマスコミが全く報道しないことである。「良心的」と言われる朝日でも1行も書かない。戦前の大本営発表の虚偽の洪水を報道してきたマスコミ。今度は一切報道しないということで「協力」する。共通するものを感じる。

毎年約5兆円もの「軍事費」は消費税2%にあたる。イラクでの無差別殺傷兵器のクラスター爆弾を自衛隊が持つ必要が何処にあるのか。1000台以上の戦車をいまだき何で必要なのか。拳がれば税金の無駄づかいはいくらでもある。官庁で防衛省は例外なのか。

自衛隊に賛成の人も反対の人も、平和を望む日本にとって兵器無駄づかいを総点検することに立ち上がらなければならない。「聖域」ほど悪の温床となる。

2. 国家戦略局って?

鳩山内閣は政策作成の中核として国家戦略局を創設する。この言葉は軍事用語そのものではないのか。また、そう思われてもしかたがない。（戦争が国家政策の中心であるアメリカならともかく）。「国益」優先論で他国を省みない戦前の戦争政策を連想させる。例えばタンカーが海賊に襲われた。日本に石油が来なくなったら「終わりだ」。国益を守るために自衛隊出動だ。戦前の軍国主義の論理ではないのか。

治安確保と戦争は全く別物である。治安を守る事なら近隣諸国と協力して海上保安庁の巡視船で充分である。どんなに言い訳しても自衛隊・軍隊の出動は戦争ない戦争協力である。少なくともそのような誤解をされる言葉は平和国家にとって無縁である。担当大臣に故市川房枝の秘書だった菅直人になるようだが、戦前、戦争反対・婦人有権者同盟で体を張ってきた彼女はどんな気持ちで見守っているだろうか。（つづく 伊達）